

大気浮遊じんモニタリング結果について（令和7年9月16日までの評価）

●渡邊正己京都大学名誉教授（南相馬市放射線健康対策委員会委員長）による解説

厳しい暑さが続きますが、稲が実り、アキアカネが飛び、ススキの穂が秋を感じさせます。

自然の移ろいと同様、原発事故で飛散した物質の放射能濃度は着実に減り続けています。

空中に浮遊する放射能濃度では多少の変動がありますが、健康に影響を及ぼす濃度には遠く及ばない、わずかな濃度の変動でのレベルです。

着実に事故現場の復旧作業が進み、季節の移ろいをめでる日が迎えられよう、心から願っています。

